

社会貢献活動

社会貢献に対する考え方

当社は、持続可能な社会の実現に貢献するために、「小野薬品社会貢献グローバルポリシー」のもと、さまざまな社会貢献活動を行っています。また、現在および将来の事業活動との関連性や自社の経営資源を考慮して、当社が注力すべき重点分野を決めたうえで取り組みを推進しています。

小野薬品社会貢献グローバルポリシー

小野薬品は「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、医学・薬学の発展はもとより、「良き企業市民」として、社会の持続的な発展に貢献します。また、これらの取り組みを通じて、SDGsの達成にも貢献します。

本グローバルポリシーは、海外子会社にも適応されます。

- 医学・薬学の発展に貢献します。
- 患者さんとその家族の健康に貢献します。
- あらゆる生命の存続に資する環境保全に貢献します。
- 子どもたちの健康につながる教育に貢献します。
- 医療環境の整備に貢献します。

上記活動に関する慈善寄付に関しては、透明性をもって実施します。

対象エリアは当社が事業活動を行う地域と医療基盤が未成熟な地域^{※1}とします。

※1 世界銀行が定める低所得国及び低中所得国など

低所得国：<http://data.worldbank.org/income-level/low-income>

低中所得国：<https://data.worldbank.org/income-level/lower-middle-income>

会社と社員の協力のもと、そして志を同じくするステークホルダーとパートナーシップを組み、社会貢献に取り組めます。

取り組み一覧

	関連する SDGs	取り組み
医学・薬学の発展のための取り組み	 	・関係財団を通じた寄付 ・公益社団法人への支援
患者さんとその家族のための取り組み		・WEBサイトやアプリを通じた医療情報の発信 ・市民公開セミナーへの協力・開催 ・リレー・フォー・ライフへの参加 ・そらぶちキッズキャンプへのサポート ・韓国小野薬品の取り組み ・台湾小野薬品の取り組み ・献血の実施
あらゆる生命の存続に資する環境保全	  	・各事業所における自然保護活動（清掃・防災活動など） ・エコキャップ回収を通じた寄付（ワクチン、災害対策など） ・富士宮市の小学生を対象にした「水の不思議探検隊」の協賛 ・韓国小野薬品の取り組み ・台湾小野薬品の取り組み
子どもたちの健康につながる教育	 	・すこやかラダ大作戦 ・理科の出張授業（薬のヒミツ・マナブ） ・高等学校でのがん教育に対する取り組み ・歯ブラシの寄贈 ・劇団四季／一般財団法人舞台芸術センター主催「こころの劇場」関西公演への協賛 ・「こども本の森 中之島」への寄付
医療環境の整備のための取り組み	    	・ONO SWITCHプロジェクトを通じた取り組み ・公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）への参画

医学・薬学の発展のための取り組み

当社は、いまだ満たされていない医療ニーズにお応えし、医学の発展に貢献できるよう取り組んでいます。

財団を通じての研究助成

1988年に、当社からの寄付を基金とした公益財団法人小野医学研究財団が設立されました。本財団は、脂質代謝異常の分野に関する研究助成を行うほか、各種事業を通じて、当分野の治療や研究の振興を図り、国民の健康と福祉に貢献することを目的としています。設立以来毎年、研究助成および研究奨励助成を行っており、2021年度には、早石修記念賞1名、研究助成対象者12名、研究奨励助成対象者（満40歳以下）16名が、それぞれ選ばれました。

また、生化学に関わる生命科学全般の研究に意欲的な研究者の海外留学のための公益社団法人日本生化学会の新事業「早石修記念海外留学助成」に対し、2017年度から支援を行っており、2022年度の対象者として、2021年10月に8名の研究者の方への支援が採択されました。加えて、[ONO Pharma Foundation](#)による海外研究者への研究助成を通じて、研究の振興を図り、イノベーションの土壌作りに貢献しています。

患者さんとその家族のための取り組み

当社は患者さんとその家族をはじめとして、広く人々の健康に資するために、さまざまな活動に取り組んでいます。今後も人々の健康の一助になるさまざまな活動に、継続的に取り組んでいきます。

医療情報の発信

コンテンツやアプリを通じ、継続的に医療に役立つ最新の情報を広く発信しています。また、疾患啓発や正しい情報の発信を目的として開催される疾病関連の市民公開セミナーへの協力・開催も行っており、2021年度はリウマチ、がん、糖尿病などの領域を中心に5回Webで実施し、約700名の方が参加されました。

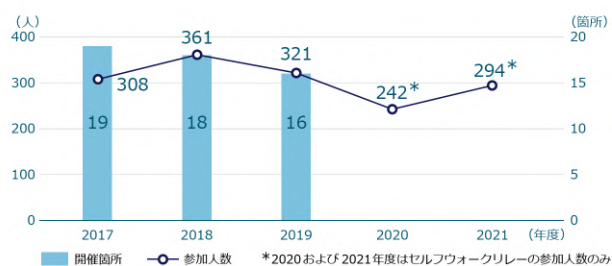
提供コンテンツとアプリ	取り組み内容
「患者さんご家族の皆さまへ」	身近な病気の具体的な症状や治療、普段心がけることを解説するサイトを運営
「ONO ONCOLOGY（一般・患者さん向け情報）」	監修医の協力を得て、がん領域の疾患や治療、がん免疫の概念を学ぶことができるサイトを運営 2020年度は、科学的根拠に基づいた適切な情報提供を行うことで、コロナ禍でのがん患者さんの治療や生活のサポートを行うことを目的に「がんと新型コロナウイルス～感染拡大下における留意点～」のページを新たに追加
「笑顔とところどころつながる認知症医療」（2022年3月末にサイト閉鎖）	治療や介護に携わる方たちとともに認知症を考えるサイトを運営
「バアちゃんの世界」	認知症啓発ショートムービーの公開
生活習慣病患者さん用のアプリ（2021年6月末に提供・運用を終了）	生活習慣病の患者さんのサポートを目的としたスマートフォン用アプリケーションソフトの無償提供
「ふくサポ®」（副作用管理支援デジタルツール）	免疫チェックポイント阻害薬で治療を受けている患者さんの体調管理を通して、副作用（特に免疫関連有害事象）の早期発見・早期治療の手助けとなる支援ツールの無償提供

リレー・フォー・ライフ

2014年度から、CSR活動の一環としてリレー・フォー・ライフに参加しています。リレー・フォー・ライフは、日本対がん協会とリレー・フォー・ライフの全国実行委員会が実施しているチャリティ活動であり、がん向き合い、がん征圧を目的として、実施されているものです。当社の研究所や工場、営業所がある開催場所を中心に、積極的に参加しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大半のエリアでリレー・フォー・ライフの開催が中止となりました。毎年このイベントを心待ちにしているがんサバイバーや参加者の方々の想いを繋ぎ、がん患者さんとそのご家族への支援を継続するために、例年のリレー・フォー・ライフに代わってセルフウォークリレーが開催されました。

セルフウォークリレーはスマートフォンにアプリを登録し、各自が感染対策を講じながら歩き、その合計歩数が『がん相談ホットライン』の運営支援(65,000歩につき1件分)に繋がるという、誰でも参加できるチャリティイベントです。2021年度は当社主催の「小野薬品セルフウォークリレー」を立ち上げ、当社からも全国294名の社員が参加し、合計歩数は38,285,505歩（がん相談ホットライン：589件分）になりました。



そらぶちキッズキャンプへのサポート

当社は2014年度より、難病の子どもたちの夢の医療ケア付キャンプ場「[そらぶちキッズキャンプ](#)」（北海道滝川市）の賛助会員として継続的にサポートしています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、キャンプ運営を縮小せざるを得なかった中での新しい企画「スノーギフト」へのサポートを行いました。スノーギフトはキャンプ場の雪を箱に詰めて、雪の降らない地域の病院などに届けて雪遊びをしていただくという企画ですが、病院内でのスムーズな荷物の受け渡しができなかったケースがありました。そこで、日頃から病院に訪問・活動している当社MRが荷物を受け取り、医療機関の担当者へ直接「雪」を届ける「雪運びボランティア」としてのサポートを行いました。

2021年度は2022年1月～3月にかけて、当社のMRが6つの医療機関において担当者にスノーギフトを手渡しで届け、雪に触れる機会のない入院中の子どもたちに雪遊びの楽しさをプレゼントすることができました。後日、雪遊びをした子どもたちや保護者、医療スタッフから喜びの声が届けられ、参加した社員からは、「楽しみ（雪）を届ける」お手伝いができてよかったとの感想が寄せられました。



現地法人での取り組み

台湾小野薬品（OPTW）では、新型コロナウイルス感染症拡大のため、患者さんと一緒に行う活動ができませんでした。が、継続的に患者さんに貢献したいとの思いから、「Secret Santa」と題し、病気と闘う子どもたちに向けて、子どもたちの発育や教育に役立つクリスマスプレゼントと手作りのメッセージカードを贈りました。また、2020年度に引き続き、台湾癌症基金会への寄付も行いました。（同日に行ったビーチのクリーン活動は[こちら](#)をご確認ください。）



献血への取り組み

当社では、本社をはじめ各研究所、各工場において、日本赤十字社の献血活動に積極的に協力しています。2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大により実施拠点は減少しましたが、十分な感染対策を行い、活動を実施しています。

あらゆる生命の存続に資する環境保全

当社では、事業活動を行ううえで、生態系に及ぼす影響を認識するとともに、生物多様性や気候変動などの環境課題の解決に向けて取り組んでいます。持続可能で豊かな社会の実現のため、製品の研究・開発・調達・生産・流通・販売・使用・廃棄にわたるすべての段階において、生物多様性に配慮した活動を推進することが重要であると考えており、当社は「[経団連生物多様性宣言・行動指針](#)」にも賛同しています。

また、各事業所で、清掃活動や防災活動、自然保護活動をはじめとするさまざまな地域社会貢献活動に取り組んでいます。

各事業所における取り組み

フジヤマ工場では、地域環境に配慮した活動として、富士宮市各自治会の清掃活動「ごみ一掃作戦」および「富士宮市清掃運動」で使用するゴミ袋を提供しました。また、2022年3月に工場敷地の外周の清掃を行いました。

城東製品開発センターでは、大阪市主催の大阪マラソン"クリーンUP"作戦の行事の一環として計画していた城東製品開発センターおよび隣接小学校の外周や公園等の清掃活動について、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から2020年度、2021年度の実施を見送りました。また、自衛消防力と災害対応力の強化を目的に開催された東成自衛消防協議会の自衛消防技術指導会（2021年度）は、コロナ禍を考慮し、消防署での開催を見送り、事業所内、少人数で実施しました。消火器操作と救急救命法について東成消防署の指導の下、実際の災害に備えた訓練を行いました。

水無瀬研究所では、全国名水百選に選ばれている名水を守るため「離宮の水」保存会に加入しており、年2回の一斉清掃に参加しています。また、地域住民の防火意識の高揚を目的に毎年11月に行われている島本町防火まつりへの参加や、例年1月の第2日曜日に実施される島本町消防出初式に自衛消防隊として参加し、消火訓練を行っていましたが、2020年度に引き続き2021年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、いずれも中止となり、参加することができませんでした。

福井研究所では、研究所の外周付近に捨てられているゴミ回収等の定期的な清掃の実施、防火意識の高揚および消火技術向上の一環として毎年実施される自衛消防操法大会で当社自衛消防隊が消火訓練に参加しています。また、研究所内の体育館とテニスコートを地域にお住まいの方々に開放し、交流の場所としてご利用いただいています。なお、2020年度に引き続き2021年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、自衛消防操法大会が中止となりました。

筑波研究所では、研究所周囲のポイ捨てゴミを定期的に拾い、美観を保つよう努めています。



フジヤマ工場における取り組み



エコキャップ活動

本社および水無瀬研究所、筑波研究所、城東製品開発センターではエコキャップ活動に参加し、自動販売機付近にペットボトルキャップ専用のゴミ箱を設置しています。

ペットボトルのキャップを一般ゴミとして捨てるのではなく、提供したキャップはNPO法人エコキャップ推進協会を通じて、医療支援や障がい者支援、子ども食堂の支援、および環境問題への啓発活動等、様々な社会貢献活動にあてられています。



ペットボトルキャップ専用のゴミ箱

事業所ごとの回収量	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
本社	66.0kg (28,380個)	47.0kg (20,210個)	77.3kg (33,250個)	48.0kg (20,640個)	54.0Kg (23,220個)
水無瀬研究所	25.0kg (10,750個)	62.5kg (26,875個)	54.0kg (23,220個)	36.0kg (15,480個)	36.0Kg (15,480個)
筑波研究所	—	5.5kg (2,365個)	3.0kg (1,290個)	4.0kg (1,720個)	—
城東製品開発 センター	—	—	—	—	6.13kg (3,300個)

「水のふしぎ探検隊」（フジヤマ工場周辺自治体主催／小学生対象）への協賛

当社は、富士宮市が主催する水環境を中心に、富士山の自然環境、地球環境について自ら考えることを目的とした体験学習『水のふしぎ探検隊』（フジヤマ工場周辺自治体主催／小学生対象）への協賛を2015年度より行っています。2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、本活動は中止となりました。



現地法人での取り組み

韓国小野薬品（OPKR）および台湾小野薬品（OPTW）では、毎年、12月11日の創立記念日前後に社員が自発的に参加する社会貢献活動を実施しています。

OPKRでは、2021年度はESG(環境・社会・ガバナンス)に焦点を当てて身近な自然環境を守ろうという趣旨で、ソウル特別市西大門区にある安山でトレッキングをしながらクリーンアップ活動を実施しました。クリーンアップトレッキングは、環境保全への貢献に、新型コロナウイルス感染症の影響で活動や生活に制限を受けている従業員の健康増進対策を兼ねて企画しており、有意義な時間となりました。

また、クリーンアップ活動を実施した後、小児がんNGO「ハンビット愛の後援会」を訪問しました。新型コロナウイルスの影響のためボランティア活動は自粛し、寄付で小児がん患児とご家族に想いを届けました。寄付は「ハンビット愛ハウス」において必要な物資の購入に使われます。



OPTWでは、2021年度はビーチクリーン活動を実施しました。台湾は日本と同じく島国であり、水質汚染や海洋ごみは社会問題の1つとなっています。クリーン活動を通じて、ペットボトルや空き缶だけでなく、金属片や発泡スチロールなどのごみが想像以上に廃棄されていることを知りました。今後も、SDGsや社会課題を意識しながら、従業員が参加できるCSR活動を推進していきます。



子どもたちの健康につながる教育

当社は、未来を担う子どもたちの育成を支援するための教育活動に積極的に取り組んでいます。

すこやかラダ大作戦

当社は、東日本大震災復興支援活動として、東北3県（福島県、宮城県、岩手県）の社会的課題の一つである小児肥満改善をはじめ、次世代を担う子どもたちの健康の推進と心身ともにすこやかな成長を応援する目的で、2015年より「すこやかラダ大作戦」を開始しました。

プロジェクト5年目となる2018年度は宮城県東松島市において実施し、2019年3月30日に開催したキックオフイベントでは、トップアスリートと一緒に3つのスポーツを体験するとともに、生活習慣病の専門医による健康に関するセミナー、地元食材を使った炊き出しの食育プログラム等を行いました。また、4月～6月に行った4回にわたる事後プログラムでは、さまざまなスポーツの体験を通じて、運動の習慣化につなげました。

本プロジェクトは特定非営利活動法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス「SCIX」とともに実施しております。

2019年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により延期していましたが、残念ながら岩手県宮古市での開催は実施することができず、中止となりました。

実施実績

開催年度	開催地	参加人数：延べ
2014年度	福島県大沼郡会津美里町	233名
2015年度	宮城県石巻市	381名
2016年度	岩手県大船渡市	207名
2017年度	福島県相馬市	131名
2018年度	宮城県東松島市	287名
2019年度	岩手県宮古市（新型コロナウイルス感染症の影響により延期）	—
2020年度	岩手県宮古市（新型コロナウイルス感染症の影響により再延期）	—
2021年度	岩手県宮古市（新型コロナウイルス感染症の影響により中止）	—

2018年度 キックオフイベントの様子（2019年3月実施）



2018年度 事後プログラムの様子（2019年4～6月実施）



第1回 運動の基本（走る・跳ぶ・投げる）



第2回 リレーバトンパスと長距離走る



第3回 パラ競技体験（ブラインドサッカー）



第4回 スペースボール体験

理科の出張授業（薬のヒミツ・マナブ）

理科学習や実験・薬への興味関心を高めることと、キャリア教育の目的を兼ねて、当社の研究員が講師となり、6年生を対象に薬をテーマとした出張授業を行っています。本活動は、水無瀬研究所の近くにある島本町立第三小学校においては2015年度から、城東製品開発センターに隣接している宝栄小学校においては2019年度から実施しています。2021年度も、コロナ禍ではありましたが、小学校からの強い要望に応えるために、様々な部署が集まって対策を練り、実施当日はきめ細かい対策（マスク・フェイスシールドの着用、ソーシャルディスタンスの確保、授業前後の健康チェック、CO₂測定機による換気確認、授業毎の手指および備品の消毒、スタッフ数制限など）を行いました。実施後の児童へのアンケートによると、薬や実験への興味が高まり、キャリアを考えるきっかけになっていたようです。また、当社スタッフにとっても、児童の反応を直に感じることで研究者としての初心を振り返る機会や、地域社会とのつながりを感じる貴重な時間となりました。

年度ごとの参加人数	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
児童	59名	72名	141名	81名	135名
研究サポートスタッフ	9名	12名	25名	9名	17名
事務局スタッフ	7名	10名	22名	6名	9名

出張授業実施後に、児童と先生、当社スタッフにアンケートを取り、次年度以降のプログラムの見直しなどに活用しています。



宝栄小学校での実施



島本町立第三小学校での実施

高等学校でのがん教育に対する取り組み

2022年4月から、高等学校において「がん教育」が本格的にスタートするにあたり、がん専門医や行政担当者、教育関係者が集まっていたいただき、がん教育を推進するための課題抽出を目的に「がん教育大阪サミット」を開催しました。子どもたちががんの正しい知識を身につけ、健康と命の大切さを学ぶ「がん教育」を推進するために、抽出された課題の中で当社が対応すべき課題は何かを、関係者と調整をとりながら2022年度以降に対応をすすめていきます。

＞ サミットの詳細は[朝日デジタル](#)をご確認ください。

歯ブラシの寄贈

水無瀬研究所が大阪府三島郡島本町の小学校・幼稚園・保育所（計17施設）へは2014年度から、城東製品開発センターに隣接する小学校へは2018年度から、当社関係会社㈱ビーブランド・メディコーデンタル社製品の歯磨きセットおよび歯ブラシを寄贈しています。本活動は歯の寿命を延ばすことで健康の保持増進に寄与することを目的に「歯と口の健康週間（6月4～10日）」にあわせて実施しており、2021年度は歯ブラシセット3,874セット、歯ブラシ380本を寄贈しました。良き企業市民として、地域と企業が共に発展することを大切に、今後も活動を継続していきたいと考えています。

劇団四季／一般財団法人舞台芸術センター主催の「こころの劇場」への協賛

劇団四季／一般財団法人舞台芸術センターが主催する「こころの劇場」関西公演への協賛をしています。「こころの劇場」は、生命の大切さ、人を思いやる心、信じあう喜びなど、人が生きていく上で最も大切なものを、舞台を通じて子どもたちの心に語りかけることを目的に、日本全国の子どもたち（主に小学6年生）を無料で劇場に招待し、演劇の感動を届けるプロジェクトです。当社は、このような理念に賛同し、活動をサポートしています。「こころの劇場」は新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度は活動を休止していましたが、2021年度は動画配信という新たな形で活動を再開しました。



2021年度「はじまりの樹の神話～こそあどの森の物語～」
撮影：樋口隆宏

「こども本の森 中之島」への寄付

当社は2018年より「こども本の森 中之島」への寄付を実施しています。「こども本の森 中之島」は、子どもたちに多様な本を手にとることで無限の創造力や好奇心を育んでもらうために、建築家の安藤忠雄氏が設計し、中之島公園に建設された図書館です。

医療環境の整備のための取り組み

当社では、外部とのパートナーシップのもと、医療環境の整備にも取り組んでいます。

ONO SWITCHプロジェクト

当社では、働き方改革と社会貢献活動の両方を推進させるための取り組みとして、2018年8月よりONO SWITCHプロジェクトを開始しました。本取り組みは、働き方改革の推進により削減した時間外手当に応じた金額を医療に関係するNPO・NGOに寄付する取り組みです。2020年度に3つのNPOに寄付を行い、各NPOにおいて2021年度の活動に活かされています。



＞ ONO SWITCH プロジェクトについては、[医療アクセス改善の取り組み](#)をご覧ください。